夢見る力 ～自分の世界を広げる～

所 属	愛知県弥富市立弥富北中学校	**実践者**	**濱田 蒼太**
対 象	中学校2年生（145名）	**時間数**	12時間
場 所	教室・体育館	**実践教科**	総合的な学習の時間

ねらい

・世界が抱えている課題をつかみ、それらの課題のつながりに気付く。
・課題の原因や背景を知り、自分も無関係ではないことに気付く。
・課題を抱えている国を「かわいそう」と考えるのではなく、同じ地球の一員として対等な立場で自分にできることは何かを考える。

実践内容

回	プログラム	備 考
	《1学期「夢をもとう 生き方を考えよう！」》	
	・世界一大きな授業	・「教育協力 NGO ネットワーク JNNE」教材
	・職場体験「Challenge for the dream～働くことの大切さを体験しよう～」	
	（職業調べ・働く人へのインタビュー→体験→まとめ→プレゼン）	
夏休み	・JICAエッセイコンテスト・プランジャパン読書感想文	
	《2学期「世界平和に向けてわたしたちにできること」》	
	・ 理解するってどんなこと？！4時間計画	
1	じゃがいもさんとおともだち（1時間目）	・じゃがいも（実物）
2	賛否両論の両論を知ろう（2時間目）	・意志表示カード（自作教材）
3	ジェインがやってきた！ （3時間目）	
4	豊かさって何だろう？（4時間目）	・図書「地球家族」
	・校外学習「グリーン平和と愛を広げようJ I ゃないC A！」	・教師海外研修の写真
	（なごや地球広場・ささしま散策・ピースあいち）	・SDGs展示
	（事前学習→訪問・見学→まとめ→プレゼン）	
	・広島研修「8．6 →平和への道～千羽の想いを届けよう～」	
	（事前学習→訪問・見学→まとめ→展示）	
	・ つながりに気づき、つながりを築く4時間計画	・パラグアイクイズ（自作教材）
5	世界と日本つながりクイズ（1時間目）	
6	つながりによる影響を知ろう（2時間目）	・図書「ゾウの森とポテトチップス」
7	つながりによる悪影響にもしかして自分も･･･（3時間目）	
8	よりよいつながりを築くには（4時間目）	・「飢える国・飽食の国」地球ﾃﾞｰﾀﾏｯﾌﾟ第10回
	《3学期「より良い未来のために，わたしたちにできること」》	
	・ 平和を創り出すわたしたち！4時間計画	
9	世界のSOS（1時間目）	・教師海外研修体験談
10	課題の原因を追求しよう（2時間目）	・教師海外研修の写真
11	平和を創り出すわたしたち！（3時間目）	・教師海外研修の動画
12	平和を創り出すために活躍する人たち（4時間目）	・JICA ボランティアで活躍した人の出前授業
	・修学旅行にむけて（企業訪問探し）	
	SDGs達成に向けて取り組んでいる企業やNPOの国際協力・国際貢献の現状について調べ、修学旅行に訪問させてもらえるように電話する。	

成 果

生徒は、遠い国で起こっている様々な課題と自分とのつながりを知り、自分ごととして考えられるようになってきたと感じる。これまでは、「世界の課題を解決するにはとにかく募金」と考える生徒が多く、視野がもう少し広がればいいなと感じていた。このプログラムを通して、物を買う時にその物がどんな過程で作られたものかを考えたり、フェアトレード商品を選んだり、食べ物を残さず食べたりするなど、より身近なところで自分にできることを考えられるようになったと思う。

課 題

ねらいとする力を育むために、アイスブレイクを含めたアクティビティの流れや的確なファシリテートをもっと熟考する必要があると思った。今後はさらに、世界共通の課題をもった「地球市民のひとり」という自覚がある生徒を育てたい。日常の中でも広い視野で考え、行動する力をつけられるプログラムが必要である。普段の生活の中で世界の SOS に反応できることが増えるといいなと思う。

備 考

来年度は、修学旅行を通して、日本（東京）の企業やNPOの SDGs達成に向けた国際協力・国際貢献の現状について学ぶ。よりグローバルな視野を広げ、自分たちにできることを考えて行動していく国際理科教育を進めていきたい。

［授業実践の詳細］

1 時限目「じゃがいもさんとおともだち」

この時限のねらい

・私たちは、一人一人“わたしの大切な物語”を生きる存在であることに気づく。
・世界の問題を解決するためには、その人たちに心馳せることが重要であることを知る。

1 児童生徒の活動の流れ

① 《アイスブレイク》自分の名前のイニシャルで始まる自分を表す言葉を添え、自己紹介する。
② グループ対抗でワールドクイズに挑戦する。
③ 1 人 1 つじゃがいもを手に取り、友達になったと想定して 3 分間観察し、じゃがいもの生い立ちを考える。
④ グループで生い立ちを発表し合う。
⑤ グループのじゃがいもを混ぜ、その中から自分が友達になったじゃがいもを探し出す。
⑥ 個人で、③～⑤の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑦ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

＜③北海道出身、兄弟は5人で…＞

＜⑤あ、これ私のじゃがいもだ！＞

2 児童生徒の活動の成果・反応

◇ じゃがいもを手に取った生徒は、想像をふくらませ、真剣に生い立ちを考えていた。グループで生い立ちを発表するときは、まるで本当の友達を紹介するようだった。
◇ 生徒はじゃがいもを混ぜた時、「え、混ぜるの？！」と驚いていた。探し出すことができるか不安そうだったが、全員自分のじゃがいもを見つけることができ、生徒は嬉しそうにしていた。じゃがいもと同じように人間にも大切な物語があり、理解するには、まずその人に心を馳せることが重要であることに体験的に気づくことができた。

3 使用した教材

＜教材1＞ じゃがいも（実物） 145 個
＜教材2＞ ワールドクイズ 愛知県国際交流協会『国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」』http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html

2 時限目「賛否両論の両論を知ろう」

この時限のねらい

・価値観は多様であり、私の当たり前≠あなたの当たり前であることに気づく。
・片方からの情報だけでは価値観が固まることに気づく。

1 児童生徒の活動の流れ

① 「はい」「どちらかといえばはい」「いいえ」「どちらかといえばいいえ」と書いたカードを作る。

② ファシリテーターが出す質問に対して自分の考えに当てはまるカードを出し、理由を話し合う。
③「生命保険加入」について、A(加入に肯定的)と B(加入に否定的)の 2 種類の資料のうち、1種類だけを読み、大切だと思うところには線を引く。
④ 生命保険に将来入ろうと思うかどうかの質問に挙手で答える。
⑤ グループで理由を話し合う。
⑥ 分かったこと、気づいたことをグループでリストアップし、全体で共有する。【リストアップ】
⑦ 個人で、③～⑥の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑧ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

<②せーの！ハイ。え？なんで？>

<④僕は加入しないでおこうかな>

2 児童生徒の活動の成果・反応

◇ せーの！の合図でいっせいにカードを提示する活動は、普段自分の意見を表現することが苦手な生徒も参加しやすかったようである。
◇ 自分と違うカードを出した時や同じカードだけれど理由が違う時には、積極的に対話する姿が見られた。
◇「生命保険に将来入ろうと思う人は手を挙げて下さい」という質問に対して、多くの生徒が手を挙げた。加入に否定的な資料 B を読んだ生徒も、手を挙げていることがあった。生徒に、はじめから知識があったためだと思われる。
◇ ④では、手を挙げなかった生徒は、まわりの生徒を見て驚いていた。理由を話し合うときは、資料の内容を紹介し合い、2種類の情報があったことに気づいた。片方の情報だけでなく、それぞれ違ったあらゆる価値観があることが大切なことに気づいた。

3 使用した教材

＜教材3＞ 意思表示カード(マグネット＋シール)
＜教材4＞ 保険加入についての資料 2 種類

3 時限目「ジェインがやってきた！」

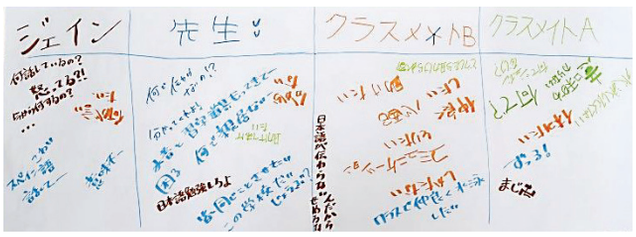
この時限のねらい

・周囲とよりよいコミュニケーションをとれるようにするためにできることを考える。
・他者を理解するということを考え、行動計画を作成することができる。

1 児童生徒の活動の流れ

①「立つ、座る、手を挙げる」などの動作を記した言語カード A(スペイン語)、B(英語)のうちのひとつを読み、ファシリテーターの指示(スペイン語)に従って動作を行う。
② パラグアイからある中学校に転入してきて、困った経験をしているジェインという女の子と、その周りにいる教師やクラスメイトをグループで演じる。【ロールプレイ】
③ それぞれの人物がどんな気持ちでいるのかを考え、表に書き込む。【対比表】
④「ジェインの気持ちの聞き取りをした支援員の話」を読む。
⑤ ジェインが周囲とよりよいコミュニケーションをとれるようにするにはどのような方法があるかを考え、「個人でできること」「クラスでできること」「学校全体でできること」と分けて書く。【行動計画表】

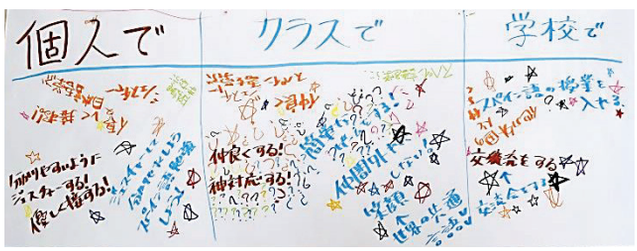
⑥ できた表をクラス全体で共有する。なるほど、いいなと思った部分に☆印をつける。これってどういうこと？と思ったところには？印をつける。【回し読み】
⑦ 個人で、②～⑥の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑧ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。



<③ロールプレイ後　それぞれの人物の気持ち　対比表>

2　児童生徒の活動の成果・反応

◇ ①では、カード A を読んでいた生徒が言葉が分からなくて困った。生徒は、言葉の分からない国に転校したときの気持ちを体験することができた。
◇ ロールプレイの冒頭はシナリオを用意したが、一部のグループはその後が続かなかった。



<⑤ジェインとよりよいコミュニケーションをとるためにできること>

◇ ③では、ジェイン以外の気持ちは、生徒はロールプレイをやらなくても分かるため、ジェインの気持ちだけに絞って考えてもよかったと思った。
◇ 「転校生がやってくる」という設定は生徒には分かりやすく、ジェインの気持ちになった上で、自分にできることを具体的に行動計画表に書くことができた。

<⑤クラスで交流会はどう？サッカーしたり…>

3　使用した教材

＜教材5＞　言語カード、役割カード、ジェインの気持ちの聞き取りをした支援員の話

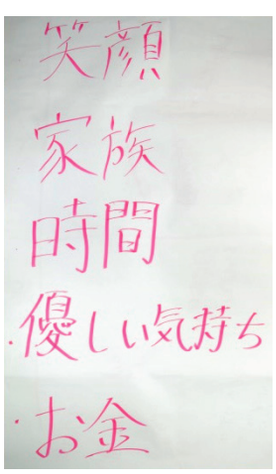
4　時限目「豊かさって何だろう？」

この時限のねらい

・「地球家族」の写真から、豊かさの視点を考えることができる。
・豊かさのとらえ方の多様性に気づき、豊かなくらしのために必要なこと（もの）を考えることができる。
・「豊かさ」も感じ方や考え方次第であることに気付くことができる。

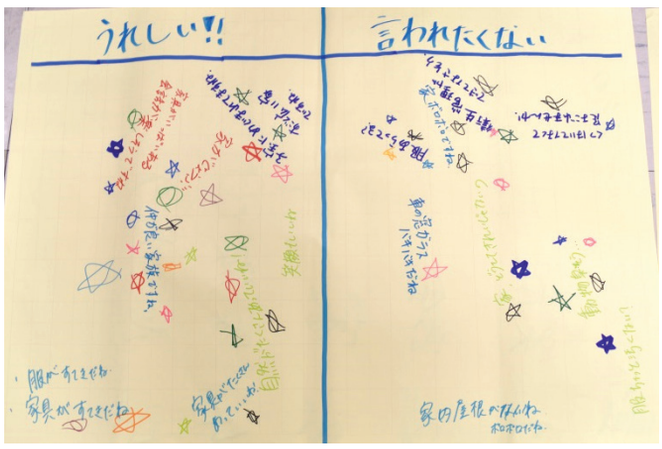
1　児童生徒の活動の流れ

① 各国の暮らしを撮影した写真を1人1枚手に取り、写真の中の一人になりきり、写真の家族の自己紹介をする。
② もしも自分がこの写真の家族だとして、「言われて嬉しいこと」「言われたくないこと」を考える。
③ 班で②を対比表にして、全体で共有する。【対比表】
④ 「地球家族」の写真を見て、豊かだと思う順番を話し合って決める。【フォトランゲージ】【ランキング】
⑤ 順番と豊かさの視点について、グループ毎に発表する。
⑥ 日本とパラグアイの写真を提示しながら、教師が現地で見たこと・感じたこと等を伝える。



<⑦豊かな暮らしのために必要なもの（こと）5つ>

⑦ グループで「豊かな暮らしのために必要なもの（こと）」を考え、5 つ書き出す。【指標作り】
⑧ グループ毎に発表する。
⑨ 個人で、①～⑦の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑩ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。



＜③言われて嬉しいこと／言われたくないこと　対比表＞

＜④この写真の人、いい笑顔だね＞

2　児童生徒の活動の成果・反応

◇ ②③では、写真の家族の気持ちになって考えることができていた。
◇ ④⑤では、写真のどこで豊かさを判断しているかを話し合い、順番を決めた。グループごとに豊かさの視点も順番も違いがあった。
◇ パラグアイで見た豊かさは、今まで思っていた豊かさとは全く違ったことを伝えた。生徒は「そういう豊かさもあるんだな」と目を輝かせていた。
◇ 「豊かさ」も感じ方や考え方次第であることに気づき、⑦では視野を広く考えることができた。

＜⑤順番と豊かさの視点をグループ毎にまとめた＞

3　使用した教材

＜教材6＞　マテリアルワールド・プロジェクト（代表 ピーター・メンツェル）（翻訳　近藤真里、杉山良男）『地球家族　世界 30 か国のふつうの暮らし』1994 年 11 月、TOTO出版
＜教材7＞　教師海外研修の写真・体験談

5　時限目「世界と日本つながりクイズ」

この時限のねらい

・私たちの生活は、世界とのつながりによって支えられていることに気づく。
・何気なく使っているものでも、つながりがあることを知る。

1 児童生徒の活動の流れ

① 4～5 人のグループをつくり、日頃お世話になっている外国のものを発表する。【ブレインストーミング】
② グループの中でインドネシア、パラグアイ、エチオピア、スイス、カナダのいずれかの国を担当する人を決める。
③ 各自、担当した国と日本とのつながりに関するクイズを解き、解説を読んで理解し、どんなつながりがあったか整理しておく。
④ 自分の担当した国についてグループメンバーにクイズを出題する。【クイズ】
⑤ 個人で、①～④の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑥ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

<④パラグアイに行くのに何時間かかるでしょうか?!>

2 児童生徒の活動の成果・反応

◇ 自分がクイズの出題者になるということで、自分の担当する国と日本とのつながりをよく見て大事なところに線を引くなど、しっかりと理解しようとしていた。
◇ 理解が難しい生徒については、ペアを組んで同じ国のクイズに取り組んだ。
◇ 生徒たちは普段の生活で、たくさんの国にお世話になっていることを実感できた。⑤では、お世話になっている国が困っているなら、もっと協力していきたい・助け合っていきたいと書く生徒が非常に多かった。

3 使用した教材

＜教材8＞ つながりクイズ 愛知県国際交流協会『国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」』http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html
＜教材9＞ パラグアイクイズ（自作教材）

6 時限目「つながりによる影響を知ろう」

この時限のねらい

・世界と日本とのつながりが、どんな影響を生み出しているのかを知る。
・世界とのつながりの中で、環境問題、貧困問題など知らず知らずに自分達が加担している場合があることを知る。

1 児童生徒の活動の流れ

① グループ替えをして、前時の気づいたこと・感じたこと・分かったことを新しいグループで共有する。
② 「国名カード（写真付）」と「つながりカード（★印付）」の正しい組み合わせを考え、カードを合わせる。【マッチング】
③ 正解を聞き、間違った場合は正しくカードを合わせる。
④ さらに配られた「影響カード（●印付）」が、②③で並べた国のうち、どの国のことか考え、カードを合わせる。
⑤ 正解を聞き、間違った場合は正しくカードを合わせる。

<②～⑤この国には、このカードかな～？>

⑥ マイナスの影響を生み出している4カ国（フィリピン・ガーナ・コンゴ共和国・モンゴル）の資料を１人１カ国（5 人グループは１カ国重複する）担当して読み、後でグループメンバーにポイントを説明できるようにまとめる。
⑦ グループで共有する。
⑧ 個人で、①～⑦の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑨ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

2 児童生徒の活動の成果・反応

◇ ②～⑤では、つながりが作り出す影響には、プラスの側面とマイナスの側面があることに気づくことができた。
◇ ⑥では、理解の難しい生徒はペアを組んで取り組んだ。
◇ ⑧では、「私たちがチョコレートやカシミアなどを求めれば求めるほど世界に悪い影響を与えてしまうこともあるんだなと感じました」「私が知らない間に私のせいで苦しむ人々がいなくなったらいいと思った」「私たちが苦しめている人々を少しでも救うためにも、今行われているプロジェクトなどの大切さを改めて感じた」など、つながりによるマイナスの課題を自分ごととして捉える生徒が多く見られた。

3 使用した教材

＜教材10＞ 国名−つながり−影響カード、マイナスの影響を生み出している国の資料 愛知県国際交流協会『国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」』
http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html

7 時限目「つながりによる悪影響にもしかして自分も・・・」

この時限のねらい

・世界とのつながりの中で、環境問題、貧困問題など知らず知らずに自分達が加担している場合があることを知る。
・課題がある世界とのつながりを、よりよいつながりにするための方法を考える。

1 児童生徒の活動の流れ

① 「最近食べたものの中で一番おいしかったもの」を発表し合う。
② 「食べ物を選ぶ時どんなことを大切にして選ぶか」をふせんに書き出す。【ブレインストーミング】
③ 書き出したふせんに順位をつける。【ランキング】
④ 世界との大きなつながりである「貿易」について、関連する課題を取り上げたビデオを視聴する。
⑤ ビデオを見て感じたことをグループで共有する。
⑥ 先ほどのふせん以外に、付け足したい基準を付け足す。
⑦ 書き出したふせんに順位をつける。【ランキング】
⑧ 隣のグループ同士（2 グループ間）で、ランキングを発表し合う。
⑨ 個人で、①～⑦の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑩ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。

＜⑧一番はやっぱりその商品の背景を考えることです！＞

2 児童生徒の活動の成果・反応

大きさ、味、内容量、栄養価、食品表示、アレルギー、安全性、賞味・消費期限、生産地、値段、無農薬、生産者、生産時期、見た目（インスタ映え）、新鮮さ、品質

◇ ②③では、生徒は上記のようなことをふせんに書き出し、ランキングにした。

本当に必要かを考える、どういう過程で生産されたかを考える、地産地消、フェアトレード商品、ムダに高級なものを買わない、食べない、食べきれる量だけ、消費期限が近い商品を選ぶ

◇ ⑥では、上記のような基準を書き足すことができた。⑦では、ランキングにも変化が見られた。

「食べ物を残さない、食べきれる量を買うなど、自分でやれることをやりたいと思いました」
「少しでも主食を魚の日を増やすとかをたくさんの人が実行したらいちばん良いと思う」
「私が牛肉を食べているせいで、発展途上国の人々は食糧不足で困っているなんて、想像したこともありませんでした。でも、私たちが牛肉を買うのをやめて、食糧不足をなくそうとしても、仕事を失う人がでてしまいます。しかし、このままでもいけません。制度が変わらないと、食料不足もなくならないのではな

◇ ⑨では、上記のような気づきを書く生徒が見られた。課題がある世界とのつながりを、よりよいつながりにするために自分にできることや失業の可能性も視野に入れ、新たな課題を発見する生徒の姿あった。

3 使用した教材

＜教材11＞「飢える国・飽食の国」：地球データマップ第 10 回
http://www.veoh.com/watch/v160953038zAzPeRa

8 時限目「よりよいつながりを築くには」

この時限のねらい

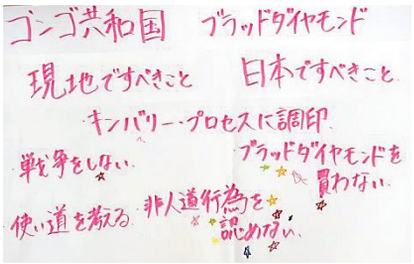
・世界とのつながりの中で、環境問題、貧困問題など知らず知らずに自分達が加担している場合があることを知る。
・課題がある世界とのつながりを、よりよいつながりにするための方法を考える。

1 児童生徒の活動の流れ

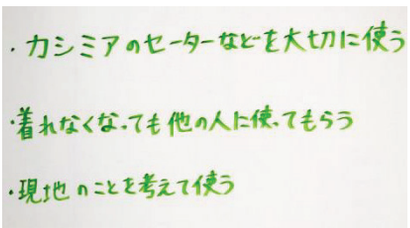
＜②これとこれは同じ？＞

① 「私の好きなお菓子」を発表し合う。
② お菓子のパッケージを見て、原材料を調べる。
③ 植物油脂の正体が「パーム油」であることを知り、パーム油が他にどんなものに使われているかを知る。
④ 絵本「ゾウの森とポテトチップス」の読み聞かせを聞く。
⑤ 6 時限目の⑥で扱った4カ国（フィリピン、ガーナ、モンゴル、コンゴ共和国）と本時のボルネオ島から1カ国をグループで担当し、マイナスの影響を起こさせないよりよいつながりを築くために、「現地ですべきこと」「日本ですべきこと」を考え、模造紙上に国名+問題となっているものをタイトルとして書き、その下に対比表にまとめる。【対比表】
⑥ 回し読みで共有し、自分達のグループになかったアイデアでなるほど！と思ったものに、☆印をつける。

⑦ 各自、「現地ですべきこと」「日本ですべきこと」に貢献するために、自分にできることを考え、紙に 3 つ書く。【指標作り】
⑧ グループで「自分にできること」を共有し、何人かが全体で発表する。
⑨ 個人で、①～⑧の作業を通して、気づいたこと・感じたこと・分かったことを紙に書く。
⑩ グループでその内容を共有し、何人かが全体で発表する。



＜⑤現地ですべきこと／日本ですべきこと＞



＜⑦自分にできること 3 つ＞

2 児童生徒の活動の成果・反応

◇ ②③では、生徒は、パーム油がほとんどのお菓子に使われていて、実はパーム油が身のまわりにありふれていることを知って驚いていた。
◇ ⑦では、「できるだけフェアトレード商品を買う」「現状を知り、他の人に伝える」「自分が何かを食べたり使ったりしている裏で色々な問題が起こっていることを忘れない」など、これまでの知識から自分にできることを一生懸命考える姿が見られた。

3 使用した教材

＜教材12＞ お菓子のパッケージ数種類（実物）
＜教材13＞ 横塚 眞己人『ゾウの森とポテトチップス』2012 年 12 月、そうえん社

■ 全体を通して

1 授業の様子

＜この考えいいな…＞

＜なるほど！その視点いいね＞

＜これは、こうじゃない？なんで？＞

2 参考文献・資料

1） 愛知県国際交流協会『国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」』http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html
2） マテリアルワールド・プロジェクト（代表 ピーター・メンツェル）（翻訳 近藤真里、杉山良男）『地球家族 世界 30 か国のふつうの暮らし』1994 年 11 月、TOTO 出版
3） 横塚 眞己人『ゾウの森とポテトチップス』2012 年 12 月、そうえん社